

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町下百町217番地5 (電話) 0944-72-7333		
自己評価作成日	令和5年1月23日	評価結果確定日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を送って頂ける様に理念を掲げ、職員一同、極め細やかで質の高いケアを目指している。ご家族とは折に触れて会話をしたり連絡を行い、近況や状態などを伝えている。訪問看護との医療連携では、急変時の対応や重度化しても安心して生活できる様に支援を行っている。また、地域の一員として施設周辺の歩道の清掃や地域のお宮掃除に参加し、地域の方と挨拶や会話を交わし交流をしている。そのため、近所の方が未使用のオムツを使って欲しいと持って来て下さった事もある。本年は新型コロナウイルス感染症が中々落ち着かない中、状況を見て外出や買物同行を行い、入所者のストレス軽減を図り、少しでも社会と繋がりが持てるように支援を行っている。本質のケアを日々高めて行くために、会議や申し送りの場などを通じて、ケアの平準化、対応の仕方、言葉遣い、留意点などについて色々な角度から伝えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

有明沿岸道路沿いにあり、近隣には神社や洋菓子店、ドラッグストアがあり、利用者の希望で散歩や買い物へ行くこともある。事業所は2階建てで、グループホームは1階に2ユニットある。白を基調とした明るいホールの天井は吹き抜けになっており、天窗を設置している。ペランダにはベンチがあり、気候が良い時は外気浴を積極的に行い、保育園児に手を振る等、地域との関わりを楽しめるよう取り組んでいる。利用者に寄り添う介護を目指している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく所に掲示し、職員全員が内容を理解し共有して実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも、理念について説明を行っている。	開設時から掲げている地域密着の視点がある事業所独自の理念がある。玄関と事務所、休憩所に理念を掲示し、職員間で共有して実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。新型コロナウイルス感染のため中止されていた公民館・お宮掃除が12月に再開され職員が参加を行った。これからも出来るだけ参加して、地域の方達と交流できるように努めたい。運営推進会議に参加して頂く区長や民生委員が利用者に声をかけて下さっている。	町内会に加入している。散歩の時に地域の方と言葉をかわす等、地域との関わりをもっている。コロナ禍前は、職員が地域の清掃活動や夏祭りのボランティアに参加していた。また、事業所の敬老会に区長や民生委員が参加したり、高校生の実習受け入れも行ってた。感染状況をみながら上記について再開を予定している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も新型コロナウイルス感染症のため以前受け入れていた高等学校福祉学科の実習も中止のままで、地域の小学校との交流も出来なかった。只、感染状況により散歩に出かけた際には、地域の方に声をかけて貰ったり、12月に再開された地域の公民館・お宮掃除に職員が参加を行った。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについては、サービスの向上に繋げている。	2か月に1回、ヒヤリハットやサービスの状況、評価の取り組み状況等を報告している。家族、介護保険課、地域包括支援センター、区長、民生委員の参加があり、転倒事故の原因や対応策などを話し合い、出された意見を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員の市役所高齢者福祉係の方、包括支援センターの方には運営推進会議の場で交流を図っている。生活保護の方については、保護係の担当者とは、月1回は顔を合わせて確認を行っている。	施設長が市や地域包括支援センターの窓口で、コロナワクチン接種や生活保護の相談、利用状況の報告等をし、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内会議の場で身体拘束の研修や、身体的拘束適正化検討委員会で定期的に会議を行い、ケアの現状を確認・検討し、内容を職員へ伝えて理解を深めている。玄関は施錠せずチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに確認を行っている。	玄関の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。また、身体拘束廃止の研修を実施し、テキストやマニュアルを準備する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体の虐待は勿論の事、言葉の虐待においても職員一人ひとりが、しっかり自覚を持って、虐待の言葉を確認した時には、その場で注意をしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認を行っている。玄関には成年後見制度の冊子を置いて情報提供をしている。現在、利用者1名が成年後見について申請中であり、書類作成時の手伝いを行った。2名の方にすでに後見人が付かれ、情報を共有をして支援を行っている。	権利擁護に関する制度について、契約時や必要に応じて説明している。成年後見制度についての内部研修が実施され、必要に応じて制度を活用できるように支援している。研修記録を整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易く丁寧に説明を行っている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後が分かり易く記述したものを作成し、利用者、家族に説明を行い、了承を得てから署名を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者や家族から意見や要望が出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。	施設長や職員は、日常的に利用者と話をし、て要望を聴くようにしている。利用者が椅子に座るとお尻が痛いと言われた際は、家族の協力を得てクッションを用意したり、利用者から食べたいと希望があった物を購入したりしている。家族が来訪時に状況報告や広報誌を渡して要望等を聴くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や施設内会議時で、職員より意見を聞く機会を設けている。日常から意見を聞いており、直ぐに実行が必要な事案については、その場で職員に伝えたり、公休者には連絡帳で確認出来る様にしている。	施設長と職員が話し合い、自己評価に取り組んでいる。施設長は、職員会議や出退勤時など職員に声を掛け、休暇の取得などについて要望しやすいように工夫している。利用者のケアや行事の計画など、職員の意見を運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように努めている。年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。また、希望休や有休を利用する事で、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員など誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。	採用にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除していない。法人内の他事業所への異動希望も対応する等、職員が働きやすい環境づくりをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、施設内会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。	人権教育について、職員会議で内部研修を実施している。テキスト研修記録は準備され、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通常、職員の経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加し、スキルの向上を図っていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、外部研修には参加できていない状況のため、施設内会議等で情報共有を深め、現場での知識向上を図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにより、他事業所の方と交流は殆ど出来なかった。直に会う機会は減少したが、今までのネットワークにより、電話などでやり取りを行う事で関係性は保たれている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナ感染症の感染拡大により、本人による施設見学は困難な状況となっているが、サービス導入前の居所（自宅や医療機関、介護施設等）への事前訪問による本人や家族との面談や関係者等（主治医やケアマネジャー、サービス事業者等）への情報収集を実施している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前や導入初期に家族との面談を行い、現在困っていることや要望などの把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時やサービス導入時に、本人や家族、関係者等への面談や情報収集にて状況や要望の把握に努め、他サービスの提案や紹介等を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の現在の能力を把握し、職員と一緒に洗濯たたみや茶碗拭き等を行い、共に生活していることを念頭に置き、過剰な介護にならないようにしている。又、毎月の壁画作りなどを職員と共に行い、利用者同士も一緒に活動できるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回家族が来所された際に、利用者の状態を報告をしている。遠方の家族には電話や便りにて日頃の状況を随時報告し、出来るだけ家族の意向に沿った支援が行えるようにして、家族との信頼関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や趣味等については、本人や家族に確認するようにしている。外出や面会に関しては新型コロナウイルス感染状況によるが、感染予防を第一と考え、場所や時間を制限して本人、家族の希望に添えるように努めている。	利用開始時に利用者や家族から馴染みの人や場所について聴き取って、把握している。コロナ禍で面会が困難な状況の時は、知人との電話を取り次ぐ等支援している。馴染みの場所の祭りの動画を見たり、昔の話をして楽しんでもらっている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性に配慮して、要望等も取り入れ、座って頂く席を決めている。利用者同士が手助けをしたりと支え合いながら過ごされるように支援を行っている。また、耳の聞こえ難い方には職員が入り会話が円滑に進むように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等でサービス終了となった場合でも、医療機関への情報提供や家族への状況確認を適宜実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や家族とのコミュニケーションを密にとり、生活への希望や意向を把握している。得た情報は職員間で共有し、希望の生活に沿えるように支援を行っている。意思疎通が難しい方は表情などでくみ取り、職員間で検討をし、思いに寄り添えるように努めている。	日頃から、職員間で利用者の情報を共有している。意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人・家族から生活状況を聞いたり、サービス事業所へ情報提供を依頼しサービス状況などの把握に努めている。情報はフェイスシートに記入し職員間で共有を行っている。また、本人や家族とのコミュニケーションをとる中で新しく得た情報は申し送りノートに記入し、随時追加して共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の状態変化を観察し記録に残し、月に1回の施設会議で現状報告を行い、情報を共有し職員全体で把握している。又、一人ひとりの身体状況を見ながら日中でも休んで頂いたり、洗濯たたみ等を一緒に行ったりと残存機能の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望等を聞くと共に、モニタリングやケアプランの目標達成の評価などは、利用者を担当する介護職員の評価等も参考にし、ケアプラン案の作成を行っている。	利用者の個性を尊重し、利用者や家族の意見を最大限取り入れながら、担当職員の評価などを踏まえ、介護計画を作成している。主治医から病状等の対する助言等も計画の中に盛り込まれている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に利用者ごとの生活状況を記入し職員間で情報を共有し、利用者の心身や生活の状態を把握し、介護計画案や実践に反映し必要な修正等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族からの要望等には出来るだけ、柔軟に対応させて頂いており、必要な日用品の購入の代行等も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外部との協力・交流が困難な状況となっているが、感染予防に努めながら近隣への買い物や散歩などの外出支援等を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明を行い、今までのかかりつけ医を継続するか本人や家族に選択してもらっている。家族が付き添い受診される場合には、電話や手紙にて状態報告を行っている。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。	利用開始前にアセスメントを行い、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者との関わりの中で、身体に気になることがあれば、医療連携している訪問看護に報告・相談し情報交換を密に行い、適切な医療機関の受診や看護を受けられるように支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては出来るだけ速やかに、基本情報や介護経過等の情報の提供を行うと共に、入院中も治療経過を随時確認しながら、スムーズに退院できるよう入院先や家族と情報交換を行っている。また、近隣の医療機関の医師や地域連携担当者等とも随時連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針があり、明文化している。状況に応じて家族やかかりつけ医と連絡を取りあって方針を共有している。希望に応じて、事業所での看取りを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会にて、救急救命について定期的に学習し、全職員が実践できるように努めており、消防署への救急救命講座の開催依頼等も検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく地震や風水害時の避難計画などを作成し災害に備えている。その他、年2回の消防避難訓練において少なくとも1回は地域や行政からも参加を募り訓練を実施している。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練や消火訓練を実施し、消防署や設備会社から消火器や機材の使用法の指導を受けている。訓練の実施を地域に呼びかけており、行政区長や地域住民の参加もある。備蓄品は2日分を事業所内に保管し、リストに期限等を記載し、職員に周知している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに気をつけ、声かけを行う時には声の大きさ、言葉、自尊心を傷つけないように配慮を行っている。施設会議時には利用者に対する言葉遣いや対応について話し合いを行い、職員の意識向上を図っている。	職員は利用者を尊重することを心がけ、寄り添った支援を行っている。契約時に、家族より人となりを伺って、支援に活かしている。個人情報の取り扱いには十分配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思いや希望（食事・入浴・排泄・やってみよう事など）が言えるようにふれあいを行い、自己決定が出来るように働きかけている。意思表示が難しい利用者には選択できるように声かけを行い、表情などから希望の把握に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の心身の状態を把握し、一人ひとりのペースを大切に、日中の過ごし方、就寝時間など利用者の希望に沿って支援している。テレビ視聴される方、会話を楽しまたい方など、それぞれに居心地の良い環境作りを努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の散髪出張サービスを利用して好みの髪型にカットされている。衣類等は利用者の希望される服を選んで着て頂いている。意思表示が難しい入所者については、入所前に好んでおられた色の服などを、ご家族より持って来ていただき、その人らしいおしゃれを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食サービスを利用しているため、一緒に調理はできないが、職員が会話をしながら食事状況を観察、和やかな食事時間を支援している。月に1回程度は、好みのお菓子作りや誕生ケーキのデコレーションを一緒に行っている。正月や花見、敬老会などは行事食を提供しており楽しみにされている。	食事は同法人の事業所より提供され、栄養価なども考慮されている。行事食や月1回のお菓子作りなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。食事時は和やかな雰囲気ですべての職員が楽しんでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに対して毎食の摂取量・水分量を記録し、嚥下状態など観察をして、施設会議で情報共有し、必要な利用者には検討を行い、食事形態を変更するなどしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で出来る方には見守りを行い、一部介助や全介助の方にはスポンジブラシを使用するなどして、口腔内に食物残渣物が無いように介助をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し状態に合わせて声かけを行い、出来るだけトイレでの排泄を促している。拒否のある方には時間を置いて再度声かけし誘導を行っている。オムツ使用の方でも排便のみトイレに座ってもらい、気持ち良く排泄してもらえようように支援をしている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを考慮し、声掛けや誘導を行っている。排泄はできるだけトイレで行っていただけるよう工夫している。オムツやパットを使用する時は、時間帯や種類を常に見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し便の量や形状を観察しながら薬による排便コントロールを行っている。自然排便を促すためにレクリエーションや歩行訓練など身体を動かしてもらったり、水分摂取量が少ない方には、細めに水分を摂ってもらう様に声かけをして便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴チェック表を作成し一人ひとりの希望やタイミングに沿った入浴支援を行っている。意思疎通の難しい方は体力等を考慮し入浴日を決めている。入浴拒否がある方は時間を置いて声かけをしたり、日を改めることもある。	風呂は毎日準備し、利用者の希望に合わせて支援している。午前中から一人ずつ入浴され、職員との会話を楽しまれている。入浴を望まない方については、様子を見ながら声掛けし入浴を促している。清拭や足湯等も取り入れている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや歩行訓練等を実施し、夜間に安眠できるように努めている。利用者一人ひとりの体調や体力に合わせて、日中にも臥床時間を作り、休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬の内容を把握し状態観察を行っている。症状や変化があった場合は、かかりつけ医へ状態報告をして指示に従って服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や得意な事を把握し、一人ひとりのできる力に合わせて、役割として洗濯たみ等を手伝って貰っている。コロナ感染予防のため外出の回数が少なくなっているが、天気の良い時はウッドデッキで食事をし気分転換を図ったり、毎月、おやつ作り等の行事を設け楽しみを持ってもらう様に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染が落ち着いている時期で、天気の良い日には、散歩や一人ひとりの希望に合わせて、近くのケーキ屋やドラッグストアへ買物同行し見守りを行っている。地域の方との交流はできなかったが、花のきれいな季節には、花見を計画し、お茶やお菓子を用意して楽しんでもらえるように支援を行った。	コロナ禍で活動に制限はあるが、密にならないよう工夫しながら、月2～3回程度、散歩や買い物に出かけている。季節ごとの花見やドライブなども取り入れている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理が出来る利用者は1名のみで、買物の希望がある時は買物代行や一緒に店に行き見守りを行っている。その他の利用者は家族より一定金額を預かり施設で管理をしている。外出支援として職員と一緒に買物に行き、清算をしてもらったり、買物の楽しみを味わってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者には携帯電話を持ったり、自宅番号を覚えている方は居られない。電話をかけたいと依頼があれば、対応している。ご家族が定期的に電話をかけられる方もあり、ゆっくりと話ができるように支援をしている。手紙等がくれば手渡しし、読むのが難しい方には代読の支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から自然光が入り、明るく開放的な雰囲気になっている。湿度計・温度計を設置し快適な空調となるように支援している。壁には季節の飾り絵を掲示したり、レクリエーションや食事の時間等はその状況に合わせてBGMを流し、ゆっくりと楽しんで頂けるような雰囲気となるように工夫をしている。	天井が高く、採光も工夫している。壁には季節感を感じられるように日中活動で制作されたはり絵などが飾られ、利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダにはベンチを設置して外の空気に触れやすいようにしている。フロアのいたるところにソファを設置して、気の合う入所者様同士でおしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと過ごしたりと、思い思いにゆっくり過ごして頂ける居場所となるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや今までの生活スタイルに配慮し、希望により自宅で使い慣れた家具や寝具、衣類など持って来てもらっている。部屋には家族との写真や家族からの贈り物を飾ったりと、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	入居時に利用者や家族から馴染みの物や写真、調度品等を持ち込んでもらい、動線等も考慮しながら、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせるように配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリー、トイレや浴室など適所に手すりを設置しており、利用者が安全に生活できるような作りになっているが、利用者個々で状態が違い、一人ひとりに合わせて残存機能を活かした支援を行っている。又、トイレや浴室の表示を分かりやすくして認識間違いを防ぐ工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく所に掲示し、職員全員が内容を理解し共有して実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも、理念について説明を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。新型コロナウイルス感染のため中止されていた公民館・お宮掃除が12月に再開され職員が参加を行った。これからも出来るだけ参加して、地域の方達と交流できるように努めたい。運営推進会議に参加して頂く区長や民生委員が利用者に声をかけて下さっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も新型コロナウイルス感染症のため以前受け入れていた高等学校福祉学科の実習も中止のままで、地域の小学校との交流も出来なかった。只、感染状況により散歩に出かけた際には、地域の方に声をかけて貰ったり、12月に再開された地域の公民館・お宮掃除に職員が参加を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについて、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員の市役所高齢者福祉係の方、包括支援センターの方には運営推進会議の場で交流を図っている。生活保護の方については、保護係の担当者とは、月1回は顔を合わせて確認を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内会議の場で身体拘束の研修や、身体的拘束適正化検討委員会で定期的に会議を行い、ケアの現状を確認・検討し、内容を職員へ伝えて理解を深めている。玄関は施錠せずチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体の虐待は勿論の事、言葉の虐待においても職員一人ひとりが、しっかり自覚を持って、虐待の言葉を確認した時には、その場で注意をしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認を行っている。玄関には成年後見制度の冊子を置いて情報提供をしている。現在、利用者1名が成年後見について申請中であり、書類作成時の手伝いを行った。2名の方にすでに後見人が付かれ、情報を共有をして支援を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易く丁寧に説明を行っている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後が分かり易く記述したものを作成し、利用者、家族に説明を行い、了承を得てから署名を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者や家族から意見や要望を出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や施設内会議時で、職員より意見を聞く機会を設けている。日常から意見を聞き取り、直ぐに実行が必要な事案については、その場で職員に伝えたり、公休者には連絡帳で確認出来る様にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように努めている。年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。また、希望休や有休を利用する事で、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員など誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、施設内会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通常、職員の経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加し、スキルの向上を図っていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、外部研修には参加できていない状況のため、施設内会議等で情報共有を深め、現場での知識向上を図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにより、他事業所の方と交流は殆ど出来なかった。直に会う機会は減少したが、今までのネットワークにより、電話などでやり取りを行う事で関係性は保たれている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新型コロナ感染症の感染拡大により、本人による施設見学は困難な状況となっているが、サービス導入前の居所（自宅や医療機関、介護施設等）への事前訪問による本人や家族との面談や関係者等（主治医やケアマネジャー、サービス事業者等）への情報収集を実施している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前や導入初期に家族との面談を行い、現在困っていることや要望などの把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時やサービス導入時に、本人や家族、関係者等への面談や情報収集にて状況や要望の把握に努め、他サービスの提案や紹介等を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の現在の能力を把握し職員と一緒に洗濯たたみや茶碗拭き等を行い、共に生活していることを念頭に置き、過剰な介護にならないようにしている。又、毎月の壁画作りなどを職員と共に行い、利用者同士も一緒に活動できるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回家族が来所された際に利用者の状態を報告をしている。遠方の家族には電話や便りにて日頃の状況を随時報告し、出来るだけ家族の意向に沿った支援が行えるようにして、家族との信頼関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や趣味等については本人や家族に確認するようにしている。外出や面会に関しては新型コロナウイルス感染状況によるが、感染予防を第一と考え、場所や時間を制限して本人、家族の希望に添えるように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性に配慮して、要望等も取り入れ、座って頂く席を決めている。利用者同士が手助けをしたりと支え合いながら過ごされるように支援を行っている。また、耳の聞こえ難い方には職員が入り会話が円滑に進むように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等でサービス終了となった場合でも、医療機関への情報提供や家族への状況確認を適宜実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や家族とのコミュニケーションを密にとり、生活への希望や意向を把握している。得た情報は職員間で共有し希望の生活に沿えるように支援を行っている。意思疎通が難しい方は表情などでくみ取り、職員間で検討をし思いに寄り添えるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人・家族から生活状況を聞いたり、サービス事業所へ情報提供を依頼しサービス状況などの把握に努めている。情報はフェイスシートに記入し職員間で共有を行っている。また、本人や家族とのコミュニケーションをとる中で新しく得た情報は申し送りノートに記入し、随時追加して共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の状態変化を観察し記録に残し、月に1回の施設会議で現状報告を行い、情報を共有し職員全体で把握している。又、一人ひとりの身体状況を見ながら日中でも休んで頂いたり、洗濯たみ等を一緒に行ったりと残存機能の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望等を聞くと共に、モニタリングやケアプランの目標達成の評価などは、利用者を担当する介護職員の評価等も参考にし、ケアプラン案の作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に利用者ごとの生活状況を記入し職員間で情報を共有し、利用者の心身や生活の状態を把握し、介護計画案や実践に反映し必要な修正等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族からの要望等には出来るだけ、柔軟に対応させて頂いており、必要な日用品の購入の代行等も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外部との協力・交流が困難な状況となっているが、感染予防に努めながら近隣への買い物や散歩などの外出支援等を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明を行い、今までのかかりつけ医を継続するか本人や家族に選択してもらっている。家族が付き添い受診される場合には、電話や手紙にて状態報告を行っている。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者との関わりの中で、身体に気になることがあれば、医療連携している訪問看護に報告・相談し情報交換を密に行い、適切な医療機関の受診や看護を受けられるように支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては出来るだけ速やかに、基本情報や介護経過等の情報の提供を行うと共に、入院中も治療経過を随時確認しながら、スムーズに退院できるよう入院先や家族と情報交換を行っている。また近隣の医療機関の医師や地域連携担当者等とも随時連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会にて、救急救命について定期的に学習し、全職員が実践できるように努めており、消防署への救急救命講座の開催依頼等も検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく地震や風水害時の避難計画などを作成し災害に備えている。その他、年2回の消防避難訓練において少なくとも1回は地域や行政からも参加を募り訓練を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに気をつけ、声かけを行う時には声の大きさ、言葉、自尊心を傷つけないように配慮を行っている。施設会議時には利用者に対する言葉遣いや対応について話し合いを行い、職員の意識向上を図っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思いや希望（食事・入浴・排泄・やってみよう事など）が言えるようにふれあいを行い、自己決定が出来るように働きかけている。意思表示が難しい利用者には選択できるように声かけを行い、表情などから希望の把握に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の心身の状態を把握し、一人ひとりのペースを大切に、日中の過ごし方、就寝時間など利用者の希望に沿って支援している。テレビ視聴される方、会話を楽しみたい方など、それぞれに居心地の良い環境作りに務めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の散髪出張サービスを利用して好みの髪型にカットされている。衣類等は利用者の希望される服を選んで着て頂いている。意思表示が難しい入所者については、入所前に好んでおられた色の服などを、ご家族より持って来ていただき、その人らしいおしゃれを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食サービスを利用しているため、一緒に調理はできないが、職員が会話をしながら食事状況を観察、和やかな食事時間を支援している。月に1回程度は、好みのお菓子作りや誕生ケーキのデコレーションを一緒に行っている。正月や花見、敬老会などは行事食を提供しており楽しみにされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに対して毎食の摂取量・水分量を記録し、嚥下状態など観察をして、施設会議で情報共有し、必要な利用者には検討を行い食事形態を変更するなどしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で出来る方には見守りを行い、一部介助や全介助の方にはスポンジブラシを使用するなどして、口腔内に食物残渣物が無いように介助をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し状態に合わせて声かけを行い、出来るだけトイレでの排泄を促している。拒否のある方には時間を置いて再度声かけし誘導を行っている。オムツ使用の方でも排便のみトイレに座ってもらい、気持ち良く排泄してもらえようように支援をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し便の量や形状を観察しながら薬による排便コントロールを行っている。自然排便を促すためにレクリエーションや歩行訓練など身体を動かしてもらったり、水分摂取量が少ない方には、細めに水分を摂ってもらう様に声かけをして便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴チェック表を作成し一人ひとりの希望やタイミングに沿った入浴支援を行っている。意思疎通の難しい方は体力等を考慮し入浴日を決めている。入浴拒否がある方は時間を置いて声かけをしたり、日を改めることもある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや歩行訓練等を実施し、夜間に安眠できるように努めている。利用者一人ひとりの体調や体力に合わせて、日中にも臥床時間を作り休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬の内容を把握し状態観察を行っている。症状や変化があった場合は、かかりつけ医へ状態報告をして指示に従って服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や得意な事を把握し、一人ひとりのできる力に合わせて、役割として洗濯たみ等を手伝って貰っている。コロナ感染予防のため外出の回数が少なくなっているが、天気の良い時はウッドデッキで食事をし気分転換を図ったり、毎月、おやつ作り等の行事を設け楽しみを持ってもらう様に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染が落ち着いている時期で、天気の良い日には、散歩や一人ひとりの希望に合わせて、近くのケーキ屋やドラッグストアへ買物同行し見守りを行っている。地域の方との交流はできなかったが、花のきれいな季節には、花見を計画し、お茶やお菓子を用意して楽しんでもらえるように支援を行った。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理が出来る利用者は1名のみで、買物の希望がある時は買物代行や一緒に店に行き見守りを行っている。その他の利用者は家族より一定金額を預かり施設で管理をしている。外出支援として職員と一緒に買物に行き、清算をしてもらったり買物の楽しみを味わってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者には携帯電話を持ったり、自宅番号を覚えている方は居られない。電話をかけたいと依頼があれば、対応している。ご家族が定期的に電話をかけられる方もあり、ゆっくりと話ができるように支援をしている。手紙等がくれば手渡しし、読むのが難しい方には代読の支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から自然光が入り、明るく開放的な雰囲気になっている。湿度計・温度計を設置し快適な空調となるように支援している。壁には季節の飾り絵を掲示したりレクリエーションや食事の時間等はその状況に合わせてBGMを流し、ゆっくりと楽しんで頂けるような雰囲気となるように工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダにはベンチを設置して外の空気に触れやすいようにしている。フロアのいたるところにソファを設置して、気の合う入所者様同士でおしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと過ごしたりと、思い思いにゆっくり過ごして頂ける居場所となるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや今までの生活スタイルに配慮し、希望により自宅で使い慣れた家具や寝具、衣類など持って来てもらっている。部屋には家族との写真や家族からの贈り物を飾ったりと、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリー、トイレや浴室など適所に手すりを設置しており、利用者が安全に生活できるような作りになっているが、利用者個々で状態が違い、一人ひとりに合わせて残存機能を活かした支援を行っている。又、トイレや浴室の表示を分かりやすくして認識間違いを防ぐ工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		